

こともある。難治性の結節性痒疹に対してはステロイド局注や凍結療法も行われる。

3. 妊娠性痒疹

prurigo of pregnancy, prurigo gestationis

妊娠初期(3～4か月)に四肢伸側および体幹に生じる痒疹で、出産後に軽快する。多くは2回目以降の妊娠で生じ、妊娠ごとに発症する傾向にある。多形妊娠疹(次項)との異同が問題となっているが、妊娠性痒疹は妊娠初期に、多形妊娠疹は妊娠後期に生じる。

4. 多形妊娠疹

polymorphic eruption of pregnancy ; PEP

同義語 : pruritic urticarial papules and plaques of pregnancy ; PUPPP

初回妊娠でとくに双胎の場合にみられやすいとされる。妊娠後期に強い搔痒を伴う小丘疹・紅斑が妊娠線部位に出現し、次第に体幹・四肢に拡大するが臍は侵されない(図 8.10)。一般的に出産後数日以内に消退する。妊娠性痒疹(前項)の遅発型と解されることもある。

5. 色素性痒疹(長島)

prurigo pigmentosa

同義語 : Nagashima's disease

搔痒の強い蕁麻疹様紅斑として出現し、痒疹様の紅色丘疹を反復して治癒後に粗大な網目状の色素沈着を残す(図 8.11)。思春期女子の背部や項部、上胸部に好発する原因不明の疾患であるが、急激なダイエットが契機になる場合がある。ミノサイクリン、DDS が有効。

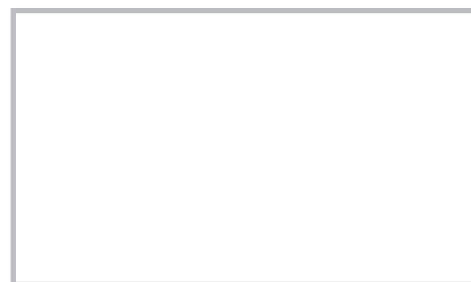
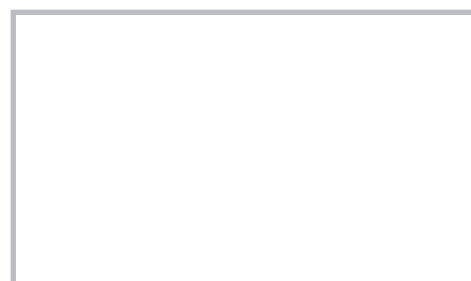


図 8.10 多形妊娠疹 (polymorphic eruption of pregnancy)

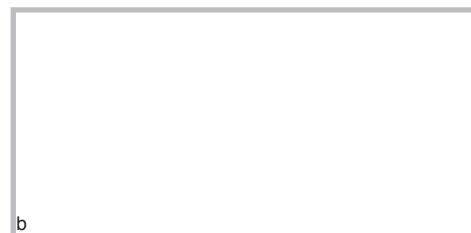
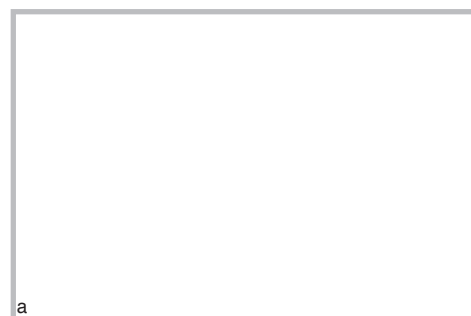


図 8.11 色素性痒疹 (prurigo pigmentosa)
a : 20 歳代女性, 項部。新鮮な紅色皮疹と陳旧性の網目状の色素沈着の混在が著明。b : 網目状の色素沈着部の中央部に紅色の新鮮な皮疹の再燃(矢印)が認められる。

皮膚搔痒症 そうよう pruritus cutaneus

Essence

- 明らかな皮疹がないにもかかわらず、強い搔痒を呈する。
- ドライスキンを伴うことが多い。
- 掻破によって二次的に皮疹や苔癬化、色素沈着などを生じる。

表 8.2 皮膚瘙癢症を生じうる疾患

--

● 抗ヒスタミン薬、心理的アプローチなどが有効。

症状・分類

症状の出現する範囲によって、汎発性と限局性に分類される。

病因

肝機能障害、腎機能障害など種々の疾患を背景に生じうる（表 8.2）。搔破によって、二次的に湿疹性病変や苔癬化、色素沈着などを認める。また、ドライスキンを伴い冬季の就寝時などに増悪しやすい。

診断・鑑別診断

種々の疾患を背景に発症するため、診断に際しては血液検査など全身検索が必要となる。外陰部に生じた場合はケジラミ症や蟯虫症、性器カンジダ症などを否定しておく。

治療

原疾患が存在する場合はその治療を行う。抗ヒスタミン薬や保湿剤、UVB 照射などが行われる。精神的要因も大きいので、十分な傾聴と必要に応じて抗不安薬などを用いる。ステロイド外用薬は二次的皮疹には効果があるが、皮膚瘙癢症自体には効果がない。また、誘因の除去（酒、コーヒー、香辛料の禁止、入浴して清潔を保つ、木綿衣服の着用、乾燥を避けるなど）も重要である。近年、痒疹メカニズムにオピオイドが関与していることが判明した。κオピオイド受容体作動薬のナルフラフィンが血液透析患者の皮膚瘙癢症に用いられる。

1. 汎発性皮膚瘙癢症 generalized pruritus ★

全身に痒疹が現れるものである。表 8.2 のように各種疾患に関連することが多い。とくに、血液透析患者の 80% で汎発性皮膚瘙癢症を認める。モルヒネなどのオピオイド類も皮膚瘙癢症を生じやすい。また、ドライスキンや精神的ストレスなどを背景として、高齢者では特別の疾患なく痒疹を訴える場合がある（老人性皮膚瘙癢症）。

2. 限局性皮膚瘙癢症 localized pruritus

肛門瘙癢症（perianal itching）が最も多く、青壮年男性に好発する。排尿障害、便秘、下痢、痔、脱肛などが原因の場合がある。女性では大・小陰唇などに好発する。